

2-2 住民意向調査

(1) 柴田町まちづくりアンケート

柴田町では、長期総合計画策定のために「柴田町まちづくりアンケート調査」を実施し、住民が望む町の将来像、柴田町の魅力、将来のまち、生活環境・都市基盤分野の満足度を聞いています。結果は、以下のようになっています。

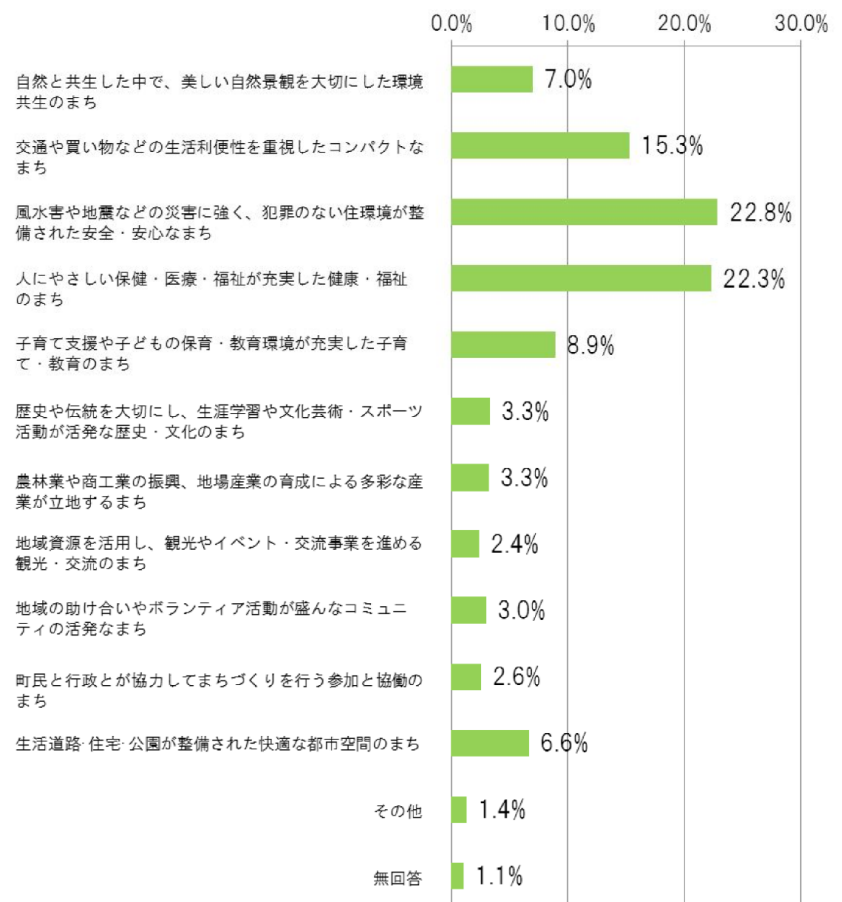
■調査の概要

項目	内容
調査名	柴田町まちづくりアンケート調査
実施期間	平成30年1月4日（木）～平成30年2月28日（水）
調査方法	18歳以上の町民、無作為抽出4,000名
配布回収	郵送による配布回収
発送数	4,000
回収数	1,832
回収率	45.8%

① 将来（8年後）のまちについて

「風水害や地震などの災害に強く、犯罪のない住環境が整備された安全・安心なまち」（22.8%）、「人にやさしい保健・医療・福祉が充実した健康・福祉のまち」（22.3%）、「交通や買い物などの生活利便施設を重視したコンパクトなまち」（15.3%）の回答が多く、安全安心で利便性の高いまちが望まれています。

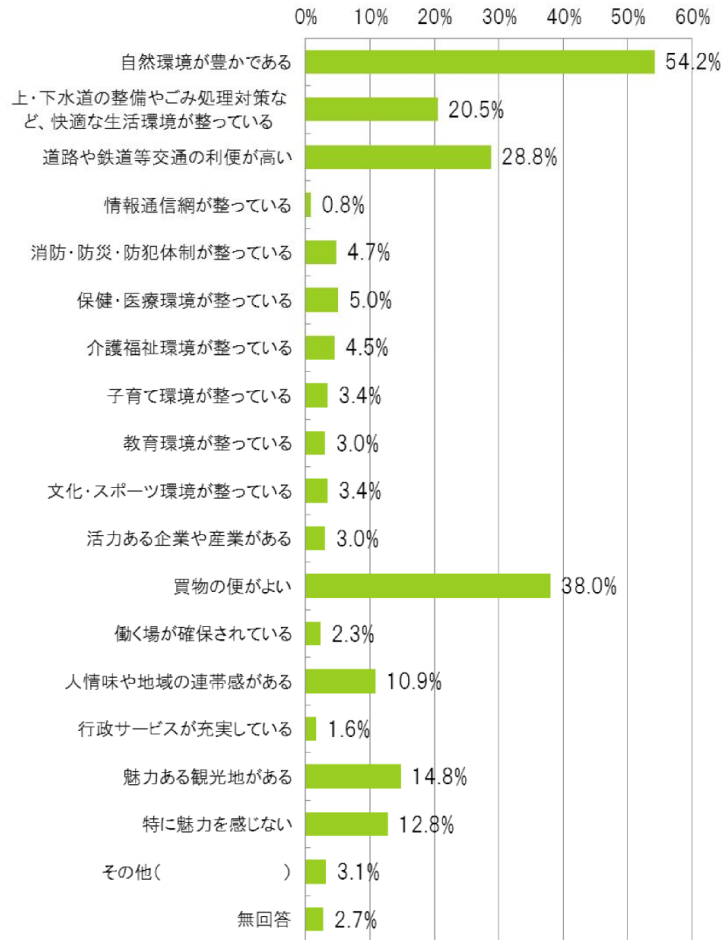
■将来（8年後）のまちについて



② 柴田町の魅力について

まちの魅力は、「自然環境が豊かである」(54.2%)、「買物の便がよい」(38.0%)、「道路や鉄道等交通の利便が高い」(28.8%)の順での回答となっており、仙台市に近接する自然豊かで、買い物の便の良いベッドタウンとしての環境の良さに魅力を感じています。

■柴田町の魅力について

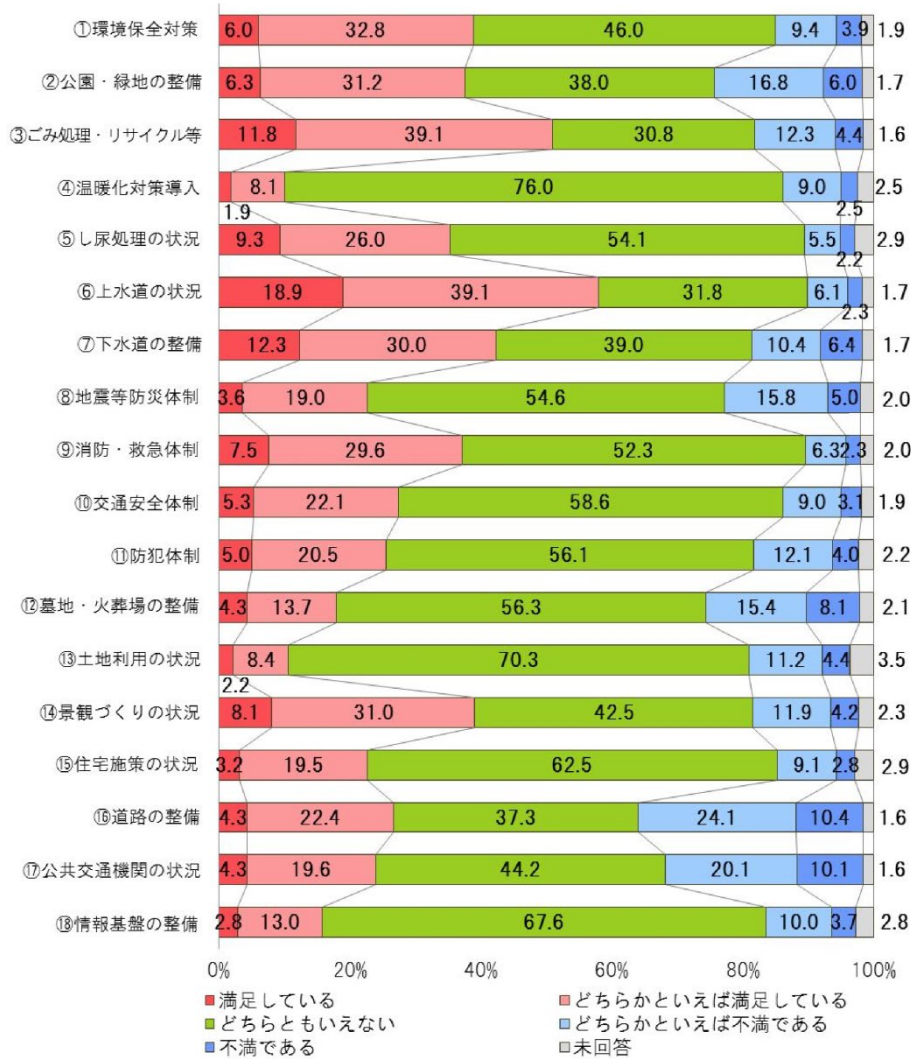


③ 生活環境・都市基盤分野の満足度について

満足度の高いものとして「満足している」、「どちらかといえば満足している」をあわせた回答は、「上水道の状況」(58.0%)、「ごみ処理・リサイクル等」(50.9%)、「下水道の整備」(42.3%)となっています。

満足度の低いものとして「どちらかといえば不満である」、「不満である」をあわせた回答は、「道路の整備」(34.5%)、「公共交通機関の状況」(30.2%)、「公園・緑地の整備」(22.8%)となっています。

■生活環境・都市基盤分野の満足度について



(2) 都市マス・立適アンケート調査結果

① 調査概要

都市マス・立地適正化計画を検討するための基礎資料とするため、都市機能の立地状況に対する満足度を聞きました。

■調査の概要

項目	内容
調査名	柴田町都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に係るアンケート調査
実施期間	令和元年8月9日(金)～令和元年8月30日(金)
調査方法	18歳以上の町民、無作為抽出
配布回収	郵送による配布回収
発送数	4,000票
回収数	1,466票
回収率	36.7%

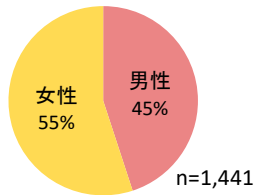
② 調査結果（全体）

(1) 性別、年齢、職業

問1：あなたの性別
問2：あなたの年齢
問3：あなたの職業

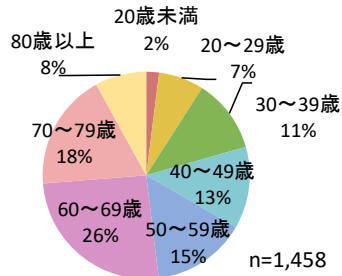
- ・回答者の性別は、男性 45%、女性 55%となっており、人口性比と比べて若干女性回答者の比率が高くなっています。
- ・年齢は、60歳以上が52%を占めており、高齢者の回答が多くなっています。
- ・職業は、高齢者が多いことから無職が23%となっており、次いでその他サービス業の20%となっています。

問1：あなたの性別



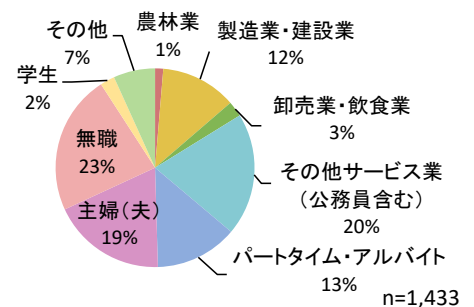
■性別構成比

問2：あなたの年齢



■年齢別構成比

問3：あなたの職業



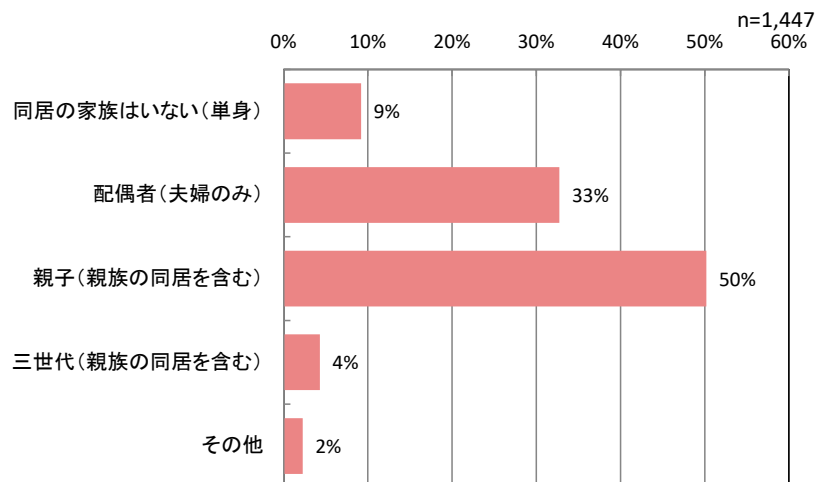
■職業別構成比

(2) 居住形態

問4：あなたを含めたご家族の構成

- ・家族構成は、親子（親族の同居も含む）が50%となっています。
- ・次いで、配偶者（夫婦のみ）が33%となっています。

問4：あなたを含めたご家族の構成

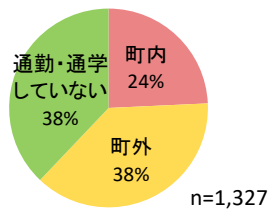


■家族構成

問5：あなたの通勤先・通学先
 問6：現在のお住まいでの居住年数
 問7：居住地区
 問8：現在、お住まいの住宅

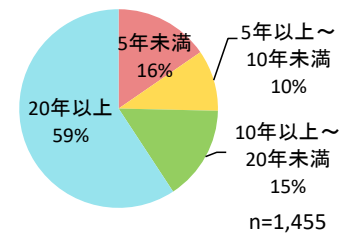
・通勤、通学先は町外、通勤・通学していないがともに38%で、町内は24%となっています。
 ・回答者の建物形態と居住年数をみると、持ち家（一戸建て）が80%、20年以上居住していると回答した人が59%を占めています。

問5：あなたの通勤先・通学先



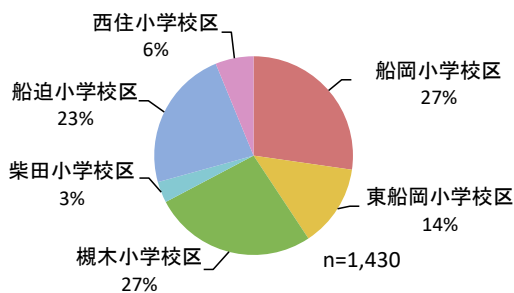
■通勤・通学先構成比

問6：現在のお住まいでの居住年数



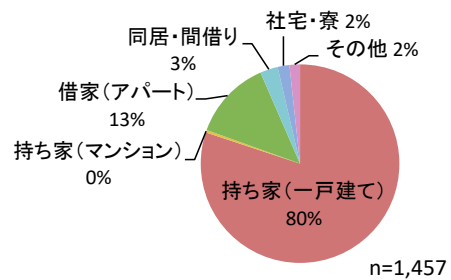
■居住年数別構成比

問7：居住地区



■居住地区構成比

問8：現在、お住まいの住宅



■建物形態別構成比

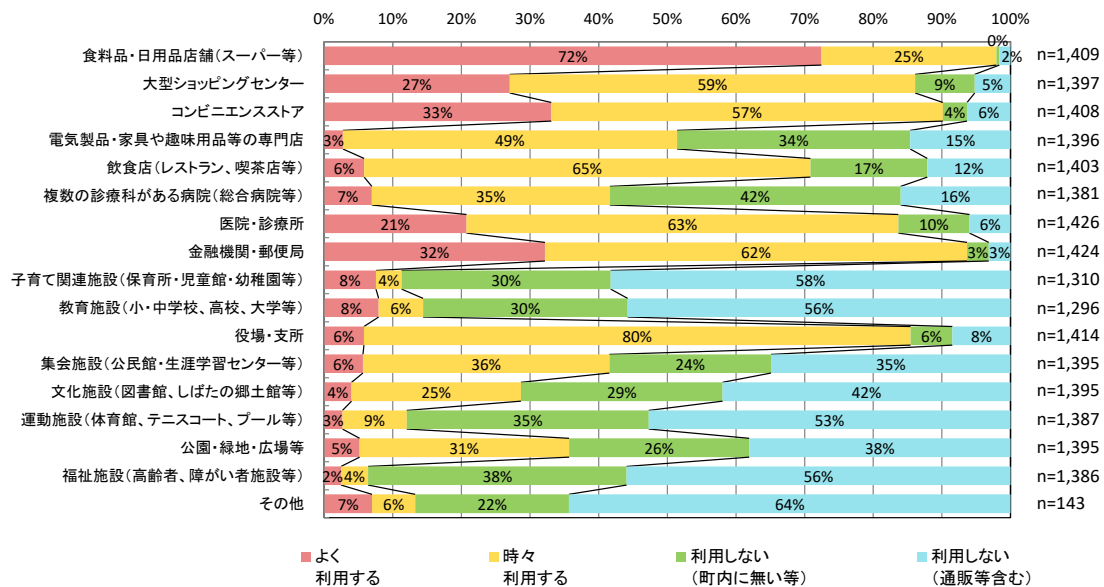
(3) 柴田町全体の現状

問9：日常生活で、「ア）町内の利用状況」、「イ）その施設まで主に利用する交通手段」

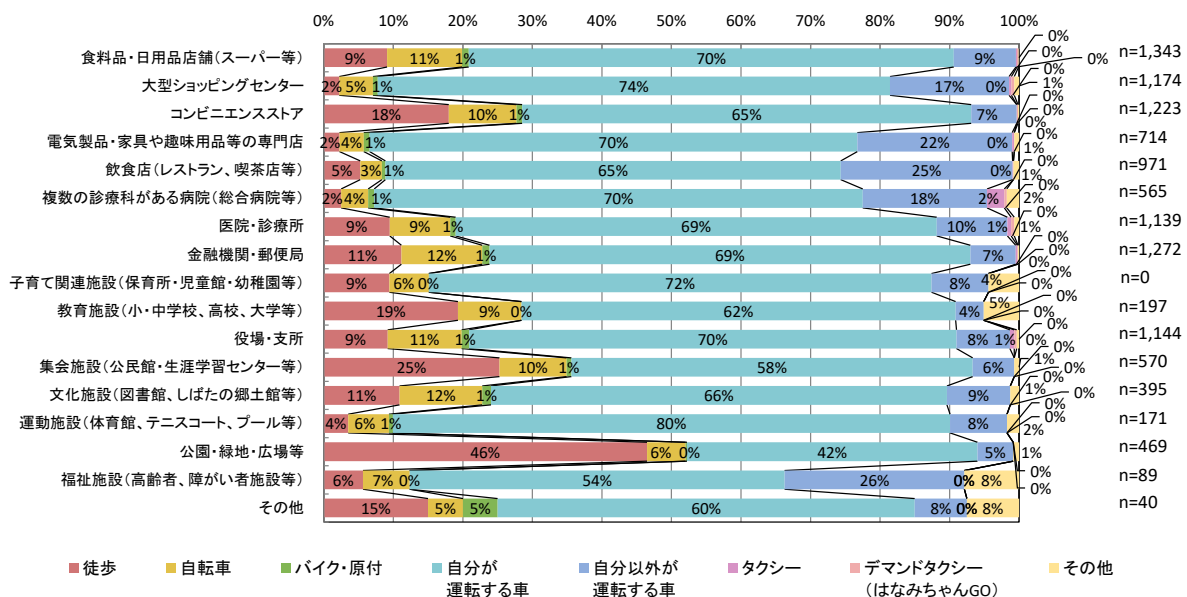
- ・町内の利用状況については、「食料品・日用品店舗（スーパー等）」、「コンビニエンスストア」、「金融機関・郵便局」、「大型ショッピングセンター」などの施設が多く利用されています。
- ・その施設まで主に利用する交通手段については、「自分が運転する車」が最も多く、次いで「自分以外が運転する車」、「徒歩」、「自転車」などとなっています。

問9：日常生活で、「ア）町内の利用状況」

■ ア）町内の利用状況



問9：日常生活で、「イ）その施設まで主に利用する交通手段」



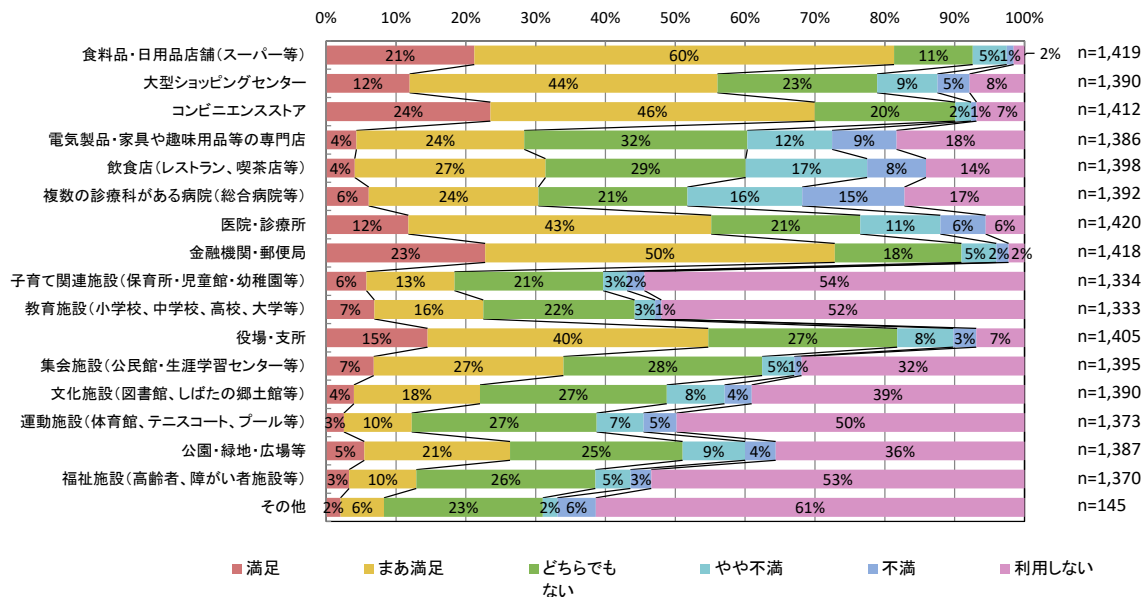
■ イ）その施設まで主に利用する交通手段

(4) 住まい周辺の生活環境

問10：日常生活で、「ア）施設の立地や利用しやすさへの満足度」、「イ）日常生活の上での重要度」

・住まい周辺の生活環境については、「食料品・日用品店舗（スーパー等）」、「コンビニエンスストア」、「金融機関・郵便局」に関しては満足度が高く、「複数の診療科がある病院（総合病院等）」、「飲食店（レストラン、喫茶店等）」に関して不満を感じている割合が高くなっています。

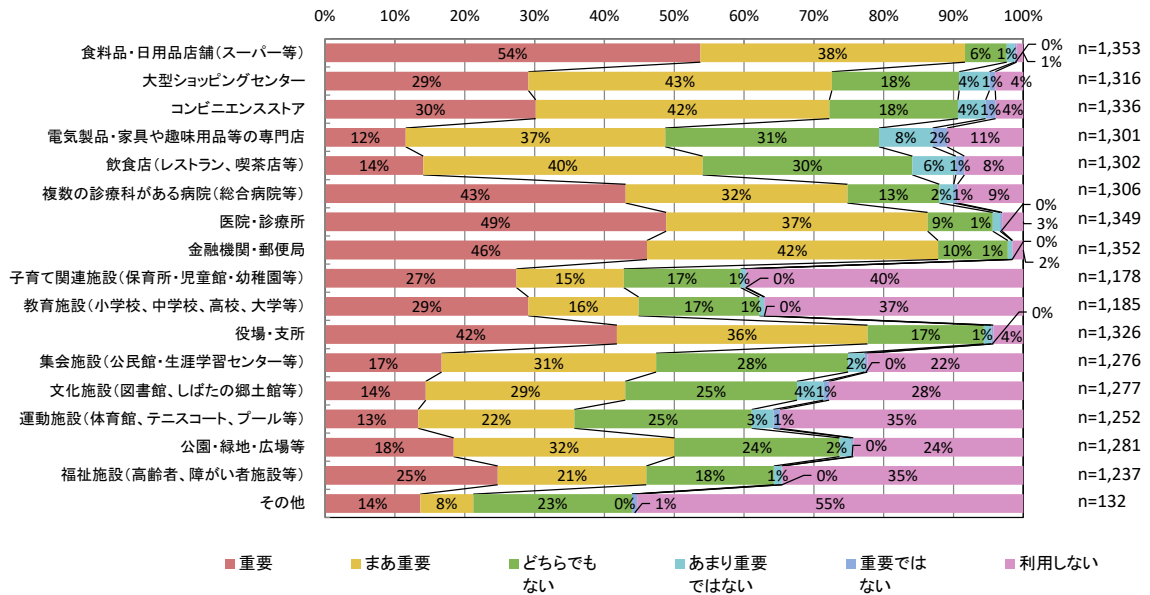
問10：日常生活で、「ア）施設の立地や利用しやすさへの満足度」



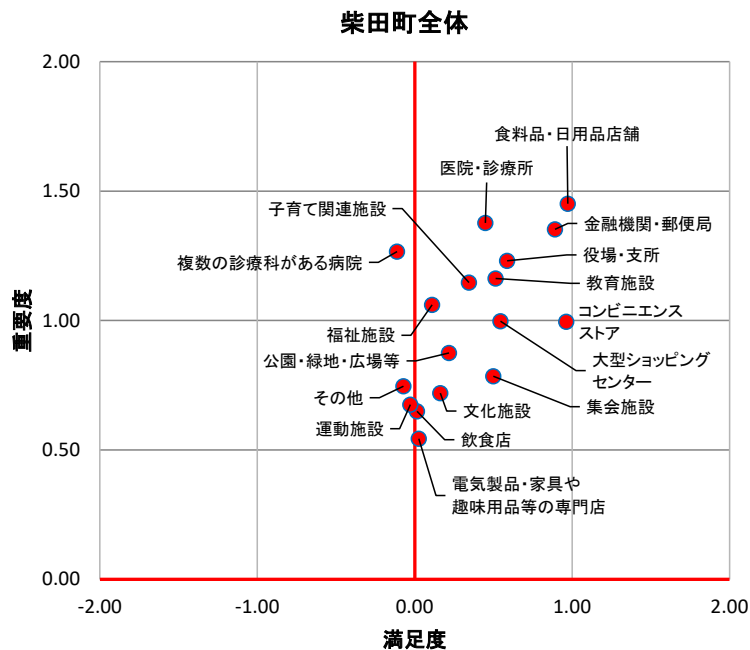
■ ア）施設の立地や利用しやすさへの満足度

・重要度をみると、「食料品・日用品店舗（スーパー等）」、「医院・診療所」、「金融機関・郵便局」、「役場・支所」に関する項目が高くなっています。

問10：日常生活で、「イ）日常生活の上での重要度」



■ イ）日常生活の上での重要度



■ 現況の満足度と重要度（点数化）

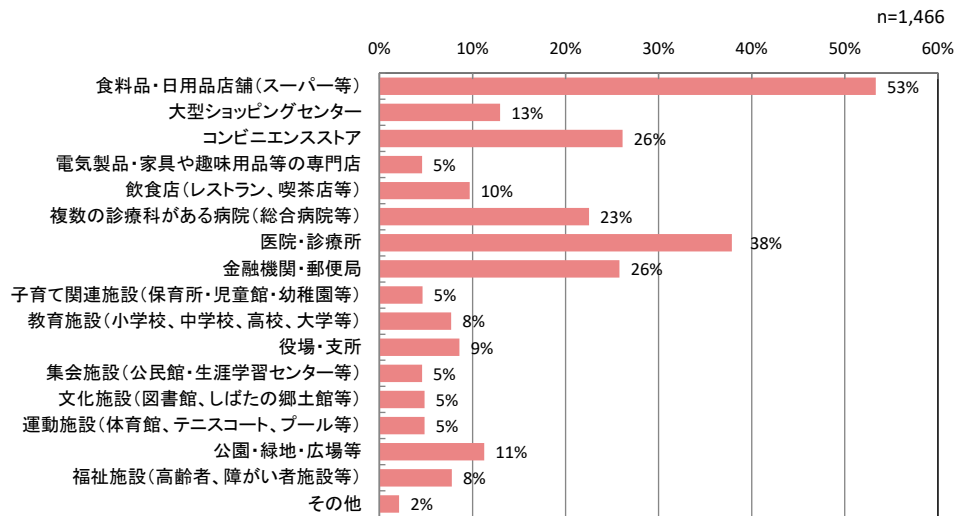
(5) 柴田町の将来像

問11：お住まい（自宅）から徒歩で行ける範囲に必要と思う施設は何ですか

問12：今後において、まちの拠点となる場所で充実すべきと思う施設は何ですか

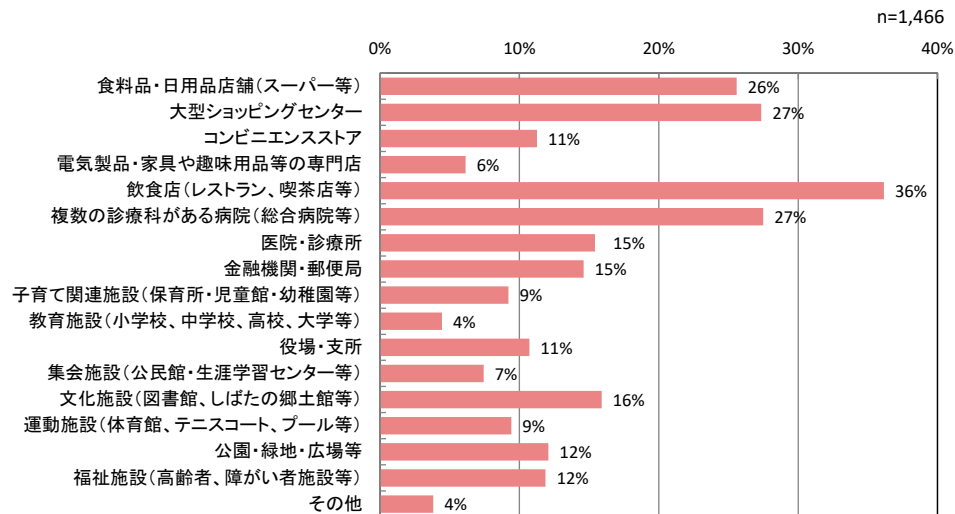
- ・ 徒歩で行ける範囲に必要とされている施設は、「食料品・日用品店舗（スーパー等）」（53%）であり、次いで「医院・診療所」（38%）、「コンビニエンスストア」、「金融機関・郵便局」（26%）となっています。
- ・ まちの拠点となる場所で充実すべきと思う施設は、「飲食店（レストラン、喫茶店等）」（36%）であり、次いで「大型ショッピングセンター」、「複数の診療科がある病院（総合病院等）」（27%）、「食料品・日用品店舗（スーパー等）」（26%）となっています。

問11：お住まい（自宅）から徒歩で行ける範囲に必要と思う施設は何ですか



■ 自宅から徒歩で行ける範囲に必要と思う施設

問12：今後において、まちの拠点となる場所で充実すべきと思う施設は何ですか



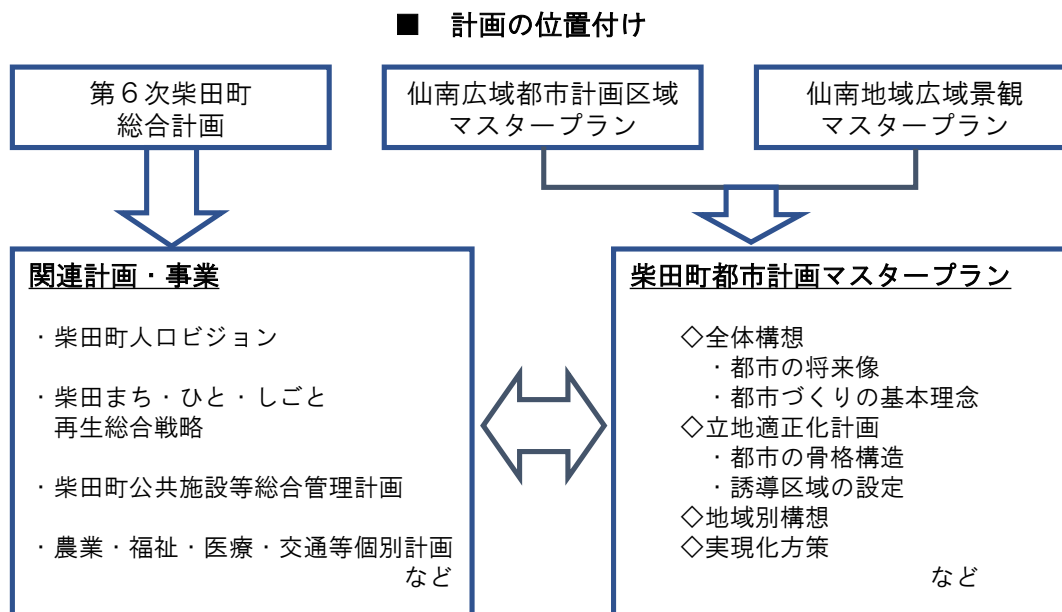
■ まちの拠点となる場所で充実すべきと思う施設

2-3 上位関連計画

(1) 計画の位置付け

本計画の上位・関連には、仙南広域都市計画区域マスタープラン（県）、第6次柴田町総合計画（町）、人口ビジョンなどがあります。

第6次柴田町総合計画は、柴田町人口ビジョンで設定された将来人口の見通しを基本に、将来の人口規模を設定しています。



(2) 上位関連計画の内容

① 第6次柴田町総合計画（平成31年3月）

項目	内容
目標年次	2016年度（2019～2026の8年間）
まちづくりの基本理念	1. 住民が安全に、安心して暮らせるまちづくり 2. 住民の一人一人が個人として尊重され、住民の思い及び活動が活かされるまちづくり 3. 先人が築いてきた文化、伝統等を大切に、地域の個性を生かしたまちづくり 4. 多様な団体及び個人が交流し、又は連携し、住民がお互いに助け合う思いやりのあるまちづくり 5. 住民であることの誇り及びまちの良さを子どもたちに引き継ぐまちづくり
まちの将来像	笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち
基本目標	・ 快適な公共空間の整備 未来の都市像をコンパクトプラスネットワーク型とし、槻木駅、

項目	内容
	船岡駅、船迫エリア、東船岡駅周辺を起点としたエリアと農村部をネットワークで結ぶ。
重点プロジェクト	<p>・ 緑豊かで快適なまち創造プロジェクト〈コンパクトシティ構想の推進〉</p> <p>都市マスを策定し「花のまち柴田」をテーマに美しい景観、都市機能の集積、災害対策、観光振興、スポーツツーリズム推進で賑わいを盛り込んでいく。</p> <p>立地適正化において都市機能・居住機能を集約し生活支援サービスが受けられるコンパクトな街並み形成を目指す。</p>

② 柴田町人口ビジョン（平成 27 年 9 月）

項目	内容
目標年次	2060 年
将来人口の目標値	2040 年 34,000 人(推計値 31,767 人) 2060 年 30,000 人(推計値 24,875 人) ※推計値は H27 予測であり現在とは異なる
方針	①出生数の向上 子育てできる環境づくりを推進 現 1.35→1.80 (2030 年) →2.10 (2060 年) ②人口流出抑制と UJ ターン促進 「戻ってこれる」環境整備による転入増加 ③特徴を生かした地域活性化 観光のまちづくりを地域活性化策とする。

③ 第 2 期 柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和 2 年 3 月）

項目	内容
目標年次	2020 年度～2024 年度
戦略の柱	戦略 1 ローカルビジネス・雇用創出 里山ビジネス、特産品開発等 戦略 2 都市と農村の共生・交流・移住推進 船岡城址・太陽の村等観光地整備等 戦略 3 子どもの未来を拓くまちづくり 待機児童ゼロ、子育てアプリ等 戦略 4 安全安心な暮らしを支える基盤づくり 地域包括ケアシステム構築 国土強靱化地域計画策定等

④ 柴田町公共施設等総合管理計画（H29.3）・柴田町公共施設個別計画（R1.12）

項目	内容
計画期間	総合：2017年度～2056年度（40年間） 個別：2021年度～2030年度（10年間）
公共施設等の管理に関する基本的な考え方	1. 建築物総量の適正化 今後40年間で現在の建築物総量（延床面積）の38%削減 建築物の更新等にかかる経費の年間約6.4億円の縮減 2. 計画的な長寿命化の推進 建築物の長寿命化を計画的に推進し、建物の耐用年数を10年延長 更新等にかかる経費については年間約2.3億円の縮減 地域包括ケアシステム構築 国土強靱化地域計画策定等
個別計画	総合管理計画に基づく方針施設ごとの具体的な取り組みを示す。
具体的な施設と方針	新設…総合体育館、図書館 更新…学校給食センター、 並松・神山前町営住宅（集約・再設置検討） 移転…船岡公民館、槻木事務所 除却…槻木体育館、土手内町営住宅など

⑤ 仙南広域都市計画区域マスタープラン（令和2年2月）

項目	内容
目標年次	令和17年（2035年）
都市づくりの基本理念	蔵王連峰に抱かれた地域資源を活かして、 圏域内外の人と文化が交流し、 安心して住み続けられる広域生活圏の形成
区域区分	区域区分を定めない
土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針	①基本方針 ・居住や公共施設・生活サービス施設の計画的な更新・誘導による身近な生活圏の形成 ・市街地内低未利用地における新たな機能の整備や誘導、用途地域の変更などの検討 ・空家等の適切な管理や利活用 ・インターチェンジ周辺などへの新たな産業の立地誘導や既存産業の維持

⑥ 仙南地域広域景観マスタープラン（令和2年7月）

■大河原町・柴田町地区の景観形成方針

項目	内容
自然景観の保全	<ul style="list-style-type: none">・船岡城址公園を中心とした四保山の樹林地が作り出す緑の景観は、市街地や白石川の背景となる潤いある自然景観として保全を図る。・白石川の環境を保全するとともに、一目千本桜と水辺が作り出す潤いと彩りある自然景観の保全を図る。
個性を活かす景観の創出	<ul style="list-style-type: none">・旧城下町や宿場町等の歴史性を有する市街地では、町の歴史を今に伝える建造物等の保全・活用を図るとともに、歴史性を活かした市街地景観の形成を図る。・遠方にそびえる蔵王連峰への眺望と調和し、魅力ある眺望を活かした景観形成を図る。・国道沿いや鉄道沿いでは、移動に伴い連続して目にする景色を意識し、沿道・沿線景観の創出に努める。・住宅を中心に形成される市街地では、誰もが心地よく住みやすいと感じられるまちづくりの実現に向け、緑豊かな落ち着いた景観形成を図る。

2-4 現状と課題のまとめ

(1) 現状と課題

項目	現状	課題
1 人口	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県南地区構成市町で1位の人口・世帯数 ■ H22～27では増加 ・ 人口 (H22) 39,343人→(H27) 39,525人(0.5%増)【国調】 ・ 世帯 (H22) 14,490世帯→(H27) 15,121世帯(4.4%増)【国調】 ・ 1世帯当たり人員 (H22) 2.7→(H27) 2.6【国調】 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 人口の維持 <input type="checkbox"/> 若い世代の流出の抑制
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県南地区構成市町では低いものの、老年人口の増加は他の市町と比べ顕著 ■ 高齢化率の急速な進行 ・ 年少人口 (H17) 5,000人→(H27) 4,803人(3.9%減)【国調】 ・ 老年人口比率(H17)8,482人→(H27)10,201人(20.3%増)【国調】 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地区別では、船迫地域など古くに開発された住宅団地、船岡地域の駅周辺で人口が減少 ■ 世帯数は増加傾向が続くものの、平成22年以降鈍化 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古くからの住宅団地の人口の高齢化、減少への対応 <input type="checkbox"/> 船岡市街地中心部の空洞化への対応
2 産業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業従事者率の減少 ■ 専業農家は横ばい、兼業農家が減少 ・ 第1次産業従事者(H22)454人→(H27)435人(4.2%減)【国調】 ■ 兼業農家減少と連動する耕地面積の減少 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 農業従事者の確保 <input type="checkbox"/> 営農環境の実態を踏まえた土地利用コントロールの検討
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第2次・第3次産業就業者の増加 ・ 第2次産業従事者(H22)5,615人→(H27)6,028人(7.4%増)【国調】 ・ 第3次産業従事者(H22)11,214人→(H27)11,462人(2.2%増)【国調】 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 雇用の拡大
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業(小売)の事業所数、従業員数は減少したものの、年間販売額は、横ばい 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 大型店舗の計画的な誘導 <input type="checkbox"/> 既存商店街の維持
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 製造品出荷額等は仙南地域で2番目 ・ (H29)1,430億円 ■ 事業所数、従業員数とも減少傾向 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 企業維持・誘致環境の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 類似都市の中では、商業と工業の生産効率・販売効率は高い 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 観光客の増加(H22)230,366人→(H29)415,892人(81%増)【商工観光課】 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 観光資源(桜・歴史等)の活用による産業の活性化
3 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 柴田町の可住地人口密度(地区人口/可住地面積)は区画整理地区で増加 ■ 一方、西迫地区で減少【基礎調】 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 旧市街地での居住環境の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 柴田町で空地率が高いのは、奥州街道沿道【基礎調】(船岡館山地区、船岡上大原地区、船岡新栄地区、剣崎地区、槻木駅前周辺地区) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 市街地の空地、空き店舗の利活用
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 未利用地率が高いのは、槻木地区【基礎調】 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地価は、仙南地域市町村が減少する中、上昇を示し、仙南地域においては、土地需要の高い地域 ■ 町内では、用途地域外(東船岡地区)の地価が低いが、推移を見ると上昇傾向 ■ 類似都市との比較では、平均を下回る 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 用途地域外での土地需要に対する土地利用のコントロール

項目	現状	課題
4 都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ■長期未整備路線のある都市計画道路 ・整備率 50.3% (完成延長 17,340m/計画延長 34,460m) 【基礎調】 ・未整備区間は計画当初から 20 年以上経過 	<ul style="list-style-type: none"> □幹線道路網の整備 □長期未着手路線の見直し
	<ul style="list-style-type: none"> ■都市計画公園 ・整備率 68.9% (供用面積 31.76ha/計画面積 46.07ha) 【基礎調】 ・類似都市との比較では、都市計画区域内人口の公園面積が低い 	<ul style="list-style-type: none"> □未整備都市計画公園の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ■下水道 ・公共下水道整備率 (汚水処理) 80.5% (供用済 716.2ha/事業認可区域 890.2ha) 【基礎調】 (雨水処理) 47.5% (供用済 193.0ha/事業認可区域 406.0ha) 【基礎調】 ・類似都市の中では、低い水準 	<ul style="list-style-type: none"> □下水道の未供用整備区域の整備促進 □下水道事業認可区域外の汚水処理率の向上
5 都市機能	<ul style="list-style-type: none"> ■県南地区の買い物を支える機能の立地 ・最寄品を自市町内で買い物する割合 (H28) 86.1% 【基礎調】 ・買回り品を自市町内で買い物する割合 (H28) 22.0% 【基礎調】 ■医療・商業・福祉等の生活サービスは、用途地域内では徒歩圏内に分布し、利便性の高い市街地が形成 	<ul style="list-style-type: none"> □県南地区の生活サービスを支える都市としての役割の発揮 □人口減少や高齢化の進展を見据えた生活サービス施設の維持と充実
6 災害特性	<ul style="list-style-type: none"> ■想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域は、用途地域内のほとんどが該当 ・用途地域内人口の 90.9%が居住 ■台風における浸水被害の頻繁化 ・洪水浸水想定区域の 3m以上の区域と重なる浸水被害 ■船迫地域で、土砂災害警戒区域等が住宅団地と重なる 	<ul style="list-style-type: none"> □洪水浸水を前提とした安全・安心な生活環境の形成 □台風のたびに浸水被害の発生する特定箇所の環境改善 □土砂災害警戒区域等と重なる住宅団地の安全・安心確保に向けた検討
7 交通	<ul style="list-style-type: none"> ■仙台市と柴田町は鉄道で接続 ■町内は、マイカー中心の交通 ・高齢者等の交通弱者に対応して「はなみちちゃんGO (ゴー)」を運行 	<ul style="list-style-type: none"> □高齢社会にも対応した快適な移動手段の検討 □町内外を跨ぐ公共交通の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ■幹線道路の交通量は横ばい傾向の中、角田柴田線(さくら大橋線)は、1.3~1.5 倍に増加 ■鉄道はJR東日本(船岡駅、槻木駅)と阿武隈急行線(東船岡駅)が運行 ・旅客輸送状況は、横ばい状況 	<ul style="list-style-type: none"> □交通量増加に伴う開発需要への計画的な対応 □行動起点となる鉄道駅周辺環境の整備
8 歳入歳出	<ul style="list-style-type: none"> ■類似都市との比較では財政力指数は低い水準 ■人口減少による財源の縮小【人口ビジョンによる将来展望】 ・将来的には、生産年齢人口の減少の見込み(社人研推計) 	<ul style="list-style-type: none"> □地域経済の活性化 □産業の誘致 □人口の定住
	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢化・インフラ老朽化に伴う歳出増大の懸念【人口ビジョンによる将来展望】 ・高齢社会の進行に伴う扶養費の増加 ・公共施設等の整備等に係る歳出は、全体の約 2 割 	<ul style="list-style-type: none"> □効率的な行財政運営 □コンパクトな市街地の維持 □公共施設の計画的な更新

※【 】は、データの出典等(国調:国勢調査、基礎調:都市計画基礎調査)

※類似都市:宮城県内で人口規模が3万~5万人規模の都市を選定(富谷市、岩沼市、東松島市、利府町、白石市)

(2) 住民意向調査（第6次柴田町総合計画策定に係るアンケート調査（H30.1））

項目	内容	課題
1 町全体の現状の満足度 ○良い点 ●足りない点	○自然環境が豊か ○買い物の便が良い ●道路や鉄道等の交通の便 ●保健・医療環境	□自然環境の保全 □公共交通機関の利便性の向上
2 町の生活環境評価 ○良い点 ●足りない点	○上水道の状況 ○ごみ処理・リサイクル等 ●道路整備 ●公共交通機関の状況	□市街地内の道路整備 □公共交通機関の充実
3 住民が望む町の将来像 （将来（8年後）のまちについて） 上位5つを抽出	○安全・安心なまち（22.8%） ○健康・福祉のまち（22.3%） ○コンパクトなまち（15.3%） ○子育て・教育のまち（8.9%） ○環境共生のまち（7%）	□災害に強い都市基盤の整備 □保健・医療・福祉が充実したまち □コンパクトなまちづくり

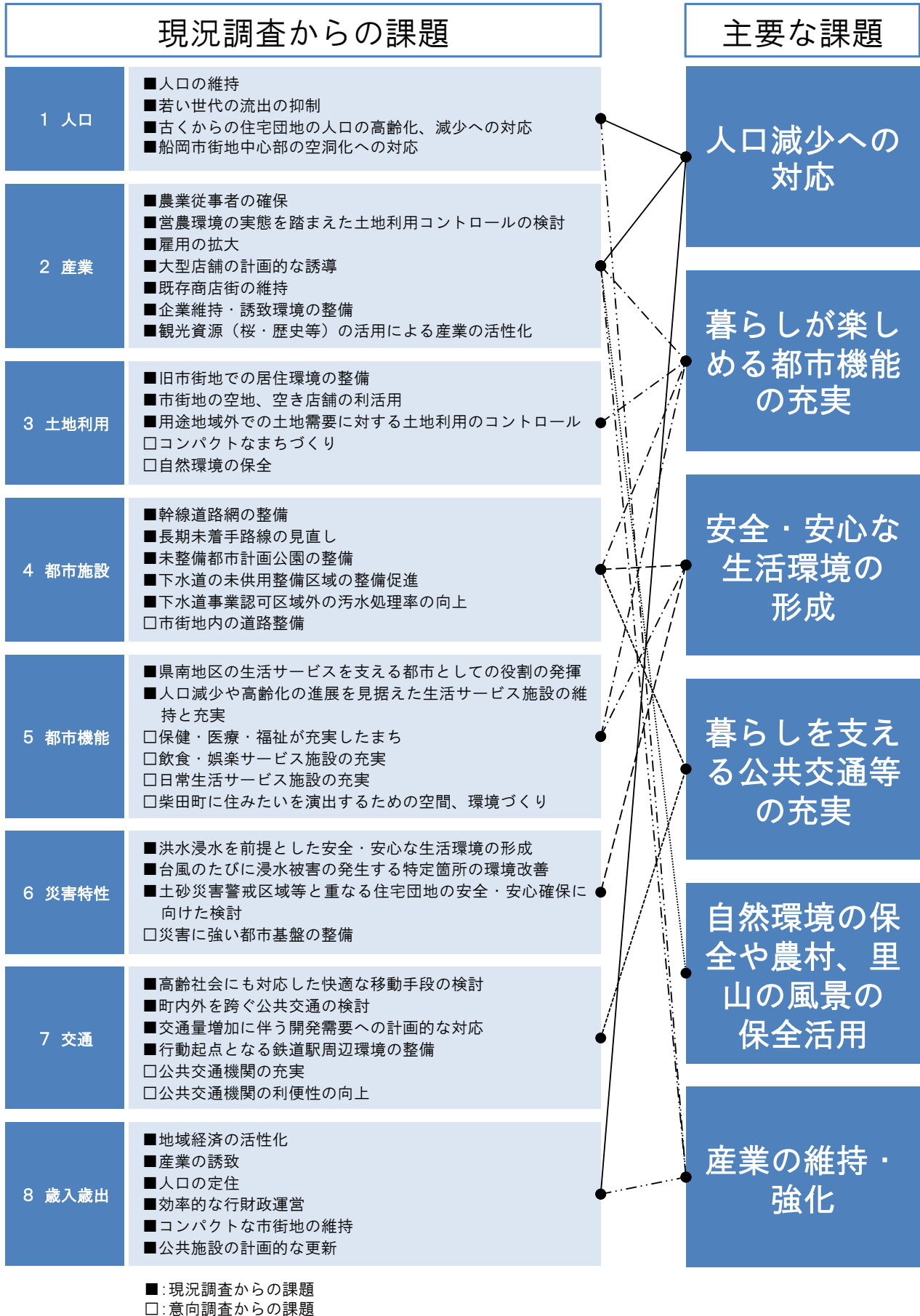
(3) 住民意向調査（今回の補足調査（R元.8））

項目	内容	課題
4 自宅から徒歩で行ける範囲に 必要と思う施設 上位5つを抽出	○食料品・日用品店舗（スーパー等） （53%） ○医院・診療所（38%） ○コンビニエンスストア（26%） ○金融機関・郵便局（26%） ○複数の診療科がある病院（総合病院等）（23%）	○日常生活サービス施設の充実
5 まちの拠点となる場所で充実 すべきと思う施設 上位5つを抽出	○飲食店（レストラン、喫茶店等） （36%） ○大型ショッピングセンター（27%） ○複数の診療科がある病院（総合病院等）（27%） ○食料品・日用品店舗（スーパー等） （26%） ○文化施設（図書館、しばたの郷土館等）（16%）	○飲食・娯楽サービス施設の充実

(4) ワーキング結果

項目	内容	課題
20年後の望ましい柴田町の姿 ワーキング意見からの抜粋	○ライフステージごとに楽しめる町 ○各年代ともやりたいことをかなえられる町 ○夢をかなえられる町	○柴田町に住みたいを演出するための空間、環境づくり

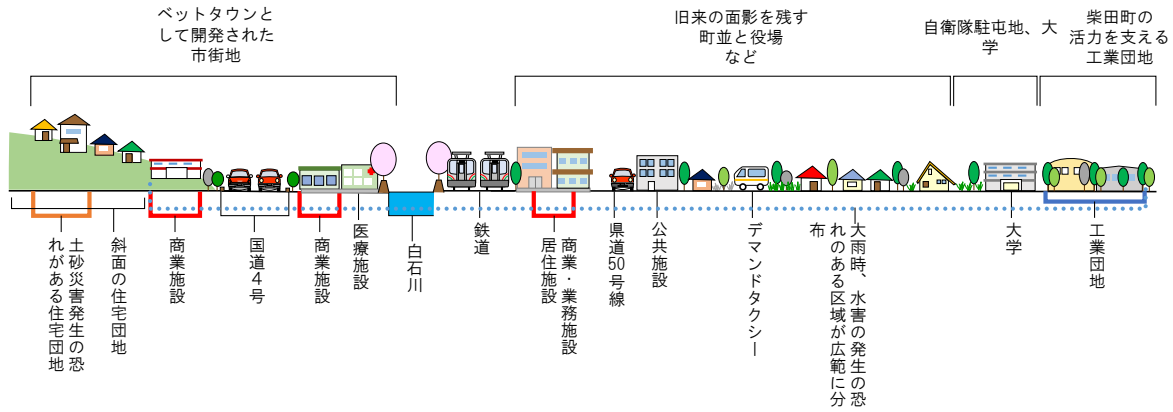
(2) 柴田町の主要な課題



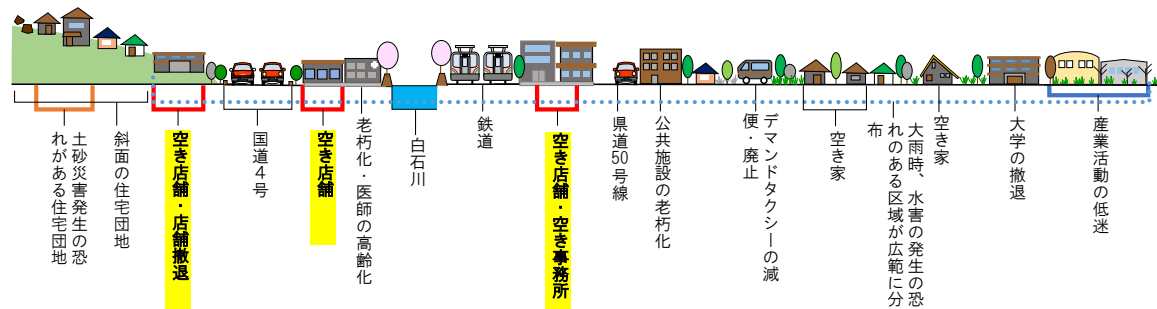
【参考】将来懸念される問題の例示

※主要な課題に取り組みないで、まちづくりがそのまま進んだ場合の問題を例示しました。

現 況



将 来



予見される問題の例示

人口が減少していく中でも、市街地を維持するための費用は変わらず、財政への影響が懸念。

空き家の発生による治安の悪化。

店舗などが撤退し、身近な場所で日常生活に必要な買い物ができない。

中心部の賑わいや拠点機能が低下。柴田町としての魅力も低下。

高齢化が進み、買い物や通院などの問題が悪化。

働き手が減り、企業誘致も進まず税収面で懸念。

水害時、被害が拡大する恐れがある。

(裏面白紙)